

大好き図書館！
2018秋の読書週間イベント

募集開始
10月10日(水)～

秋の読書週間イベントの参加者を募集します。電話又は窓口でお申し込みください。（先着順）

10月27日(土) 01



ガムテープでバッグを作ろう
■とき 午後2時～4時
■募集数 20人

10月28日(日) 02

フワフワを守り隊来館！殺処分ゼロ活動について考えてみよう
■とき 午後2時30分～4時
※申込み不要。



11月3日(祝) 03

1日何でも保健相談会
■とき 午前10時～午後4時
■内容 健康相談、栄養相談、子育て相談、がん相談
※申込み不要。

11月3日(祝) 04

体験ヨガ教室
■とき 午前11時～正午
■募集数 15人



10月27日(土)～11月9日(金) 05

図書リサイクル会
■とき 開館から閉館1時間前まで
※本が無くなり次第終了します。

新刊情報

ざんねんなスパイ
一條次郎／著
新潮社



わたしは二ホーン国のエリートスパイ。だが、どこでしくじったのだろう。市長を暗殺しにこの街へやってきたのに、そのかれと友だちになってしまった…。妙ちきりんで癖になる人(動)物たちが次々に織り成す、一大狂騒曲。

11月4日(日) 06



豆本を作ろう
■とき 午後2時～4時
■募集数 15人

おいでよ！
おはなし会

□とき 10月13日(土) 午後3時～3時30分
10月27日(土) 午前11時～11時30分
□ところ 児童コーナー

10月の休館日 (○…休館日)

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	8	⑨	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	22	23	24	⑮	26	27
28	29	30	31			

世界遺産登録を目指す「咸宜園」 -近世日本の教育遺産として- (人物編2)

淡窓・咸宜園と交流のあった文人・墨客たち①

☎世界遺産推進室(咸宜園教育研究センター内) ☎20268



昨年「やばけい遊覧」大地に描いた山水絵巻の道をゆく」が日本遺産に認定されました。県下では咸宜園に継ぐ2番目の認定です。

今年「耶馬溪誕生二百年記念祭」として記念行事が行われていました。その一つとして11月3日に「頼山陽フォーラム」が開催されます。

この「耶馬溪」の名付け親は江戸時代の学者、詩人として知られる頼山陽といわれています。山陽は若くして江戸に遊学し、その後帰郷、更に京都に出て活動し、その名声は広く九州にも伝わっていました。山陽は、文政元年(一八一八)、39歳の時、ほぼ1年をかけて九州を巡遊しました。3月に広島を立ち太宰府・長崎・熊本・薩摩などを回り、11月に日田に入り、およそ1か月滞在しました。そして、12月に日田を立ち中津の僧末広雲華を訪ねました。この時「山国谷」の景観に感嘆し、これを「耶馬溪」と呼んだのです。

それにしても、右のような山陽の「九州巡遊」の全行程を見ると、山陽の「向学」の志の強さと行動力に驚嘆のほかありません。全国各地に住む学者・文人を歴訪し、あわせて諸国の人情・風物を体感する。そのため長い遊学の旅に出る。それは山陽に限らず、この時代の学者や文人にしばしば見られました。

山陽は日田滞在中、隈町に宿をとり、淡窓の門人、館林清記の案内で咸宜園を訪れました。この時淡窓は37歳。山陽より2つ歳下でした。山陽は日田滞在中、淡窓と会い酒を酌み交わしました。この時2人

が交わした詩が「懐旧樓筆記」に残されています。

ただ淡窓は初対面の山陽について、必ずしも良い印象を持ってなかったようです。淡窓が同時代の儒学者たちを論じた「儒林評」で山陽についてこう述べています。

「子成(山陽)ハオヲ特ミテ傲慢ナリ。貧ツテ礼ナシ。故ニ少年ノ時、其国ニ容レルルコト能ハズシテ出亡セリ。海西ニ遊ビシ時ハ、年四十二近カリシモ、至ル処、人ニ悪マレ、其地ヲ逐ハレザルハナシ。京師ニ於テモ、偏ク毀リヲ得タル由ナリ。」と。

しかし、その上で「然レドモ其才ハ実ニ秀逸ナリ。」と述べ、山陽の詩人、文人としての才能を高く評価していました。このように人間的に問題があっても文才に秀でた人は漢士(中国)には数多くいるので、向こうの人はこれを別段不思議とはしないが、日本では書を読むにあたって、作者の人柄・振る舞いを問題とする風がある。よって山陽のような人はなかなか世に受け入れられない。何とも惜しいことだと淡窓は言っています。要するに淡窓は山陽の人柄には違和感を持ちながらも、その才能を高く評価していたのです。

ちなみに山陽に日田で淡窓に会うように勧めたのは豊後竹田の画人、田能村竹田でした。次回は、この田能村竹田と淡窓の交わりについて見ていきます。



頼山陽 頼山陽史跡資料館蔵

コラム

心の架け橋

成年後見制度～障がい者の権利を守る～

障がい児や障がい者の皆さんが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせるように、様々な法律や制度が作られています。これまでご紹介した「障害者差別解消法」や「障害者虐待防止法」などはその一例です。今回は「成年後見制度」についてお話しします。

成年後見制度は、認知症、知的障がいや精神障がいなどで判断力に困難のある人が、金銭や資産の管理などにおいて不利益を被らないように後見人を定めて、不十分な判断能力を補うための制度です。

後見人は、本人や配偶者、親族(4親等以内)、市長などの申し立てによって、家庭裁判所が選任を行います。家庭裁判所は、本人の状況に応じて、最も適し

ていると考えられる人を後見人に選びます。選ばれた後見人は、本人の財産や権利を守るために、保護や支援を行います。

悪徳商法や消費トラブルなどが起こった際も、制度を利用することで障がい者の皆さんを守ることができます。成年後見制度は、安心と安全のための大切な制度です。制度についての分かりやすいパンフレットが発行されています。パンフレットは、全国の家裁裁判所の窓口で配布されているほか、裁判所ウェブサイト内の後見ポータルサイトに掲載されていますので、ご覧ください。

☎社会福祉課障害福祉係 ☎8290

食生活改善推進員さんのおすすめレシピ

ころころさつまいもボール

きなこの原材料である大豆には、「畑の肉」と呼ばれるほど良質なたんぱく質がたくさん含まれています。また、鉄やカルシウム、食物繊維も豊富に含まれているので、健康効果の大きな食品として近年期待されています。



■材料■ (2人分)
さつまいも 100g
牛乳 小さじ2

<作り方>

- ①さつまいもの皮をむいて、1cm幅の半月切りにし、水にさらす。耐熱ポウルに移してラップをし、600Wで4分加熱する。硬い場合は20秒ずつ追加で加熱する。
- ②さつまいもが熱いうちに潰し、牛乳を加えて混ぜる。
- ③②にゆで小豆を加えて軽く混ぜる。
- ④4等分して、丸く成型する。
- ⑤きなこをまぶし、器に盛る。

ゆで小豆 25g
きなこ 小さじ2

☎健康保険課健康支援係 ☎3000